

漁獵

第拾号

浅草 今戸
源七地所
借

政吉

尾張町一丁目
幸太郎地借

藤助

中橋 和泉町
組合持地借

二兵衛

石ハ樺太州ニ才并テ捕鯨其外願ノ趣令免許ノ事

十二月 日 缺

開拓使印

外事

第一号

以手紙致啓上候然者我國内即今ニ至候テハ人心殊
以居合平一ニ歸レ候ニ付テハ我國民ノ内樺太ハ出
稼ノ儀願出候者若干有之候間何レモ願意致許容樺
太ハ差遣候積ニ候乍然賤民而已差置候テハ取締不
相立候ニ付右賤民共テ支配レ取締候官員我政府ヨ
リ差遣候積ニ有之候此段為御心得可得御意如此御
坐候以上

九月 日 缺

官本外務權少丞

馬渡外務少丞

野田外務大丞

魯國コンシエル

タランテンベル貴下

第二号

坐席順序ノ儀固リ大小ノ差別ナク公使岡士トモ同等ニ候ハ、我國へ到着ノ先渡ヲ以順序ヲ立可申事但公使ニ四等アリ第一第一等使節第二特派公使第三全權公使第四轉理公使ナリ此四等ハ到着ノ前後ニ拘ハラズ階級ヲ以テ順序ヲ立候事

一當時在留公使英佛ハ二等ナリ等同敷故舊ヲ上席トシ米ハ三等亭ハ四等ナリ彼常ニ其順ヲ以坐席スルナリ

一公用ニテ集會ノ節ハ椅子ヲ以飯臺ヲ圍ミ彼ヲシテ隨意ニ坐ヲトサセ候得ハ讓リ合順席ヲ立申候

一饗應等ニテ、席西洋風館ニテハ扉ヲ入其正面ヲ第一等トシ右扉ヲ皆後ニイタシ候席ヲ下等ノ坐トシ第一等ノ右ヲ二等トシ左ヲ三等トシ次第ニ順叙ヲ立申候

一書簡往復達名ノ節ハ來翰ノ連署ノ順ニイタシ此方ヨリ新ニ仕出ノ節同等ノ身分ニ候ハ、本文ノ通相心得或ハ彼方へ内引合致シ候上ニテ相定ニテ可然也

達名ノ達ハ連字ノ誤ナラン

一岡士ハ士官商人ノ元身分ニ拘ハラズ公用ノ傍商業イタシ居候コンシエルニテモ我ヨリハ同一般ニ心得可申事

一公使附書記官ニテハ各國ニヨリ数等ノ階級有之縱令下等トイヘトモ岡士トハ氣味相違ノ者ニ付接待

十二月念二日

外務省

開拓使

御中

道路

第一号

開拓使

今般本願寺東門主ヨリ北海道新道切立ノ儀且有志ノ僧徒新開村落へ移住人民教諭為致度段願之通被差許万事其府へ可伺出旨申渡候間此段相達候事

但北海道土地支配被 仰付候藩々へ為心得其府ヨリ可相達事

八月廿八日

太政官

第二号

九月三日

東本願寺光勝

今般北海道新道切立願ノ通被 仰付候ニ付開拓使

ノ指揮ヲ受テ可致盡力旨 御沙汰候事

第一号

牧畜

第一号

膳振國ノ内

虻田郡

庄 内 藩

有珠郡

伊達藤五郎

日高國ノ内

浦河郡

鹿兒島藩

右三ヶ所牧場有之候分ハ當分ノ内本府ニテ管轄イ
タシ候事

九月十四日

開 拓 使

第二号

九月十五日 御沙汰書寫

開 拓 使

用 石 使

膳振國此田郡有珠郡日高國浦河郡夫々支配ニ被
仰付置候得共各地所有之牧場ノ儀ハ當分ノ内其使
府ニテ管轄可致事

工業

第一号

一職人百人

内大工三十五人木挽五十人鍛冶十五人

石人数書ノ通今般北海道開拓御用ニ付其藩ニテ雇
入九月十日迄ニ相揃箱館表ハ可差越候事

八月十五日

開拓使

盛岡藩公用人中

尚以盛岡藩地所取締役人ニモ本文之趣相達候條
其段一應申通候也

但答書缺

褒賞

第一号

島 開拓判官

去年大総督着陣間ナク鎮將府被置候以来引續キ東
京ニ在職日夜勉勵多端ノ御用相辨ヘ今般更ニ北海
道開拓判官ニ選任被 仰付候処尋常ナラサル事務
銳意遵奉且數百里不毛寒地ニ涉リ聊不憚艱難鞠躬
盡力可致ノ心底神妙ノ至 被 恩召出格ノ譯ヲ以叙
位并目錄ノ通被下置候事

八月十五日

太 政 官

仕從四位

目 録

金五百兩

金王公上

第二号

八月念九日御沙汰書寫

佐賀藩知事鍋島直夫

賞典ハ深重ノ敝旨ヲ以被 仰出候事ニテ願ノ趣不
被及 御沙汰段先達ニ相達候得共猶又再往懇願ノ
旨趣全至誠ノ所致神妙ノ至被 思召候就テハ北海
道開拓ハ 皇威隆替ノ所係方今至重ノ御急務ニ候
處今年諸道不登庶民凍餒ノ勢ニテ目下救荒ノ費モ
難被為捨置旁以御用途必至御差迫リノ折柄不被為得
止レ御不本意當年限賞典半高返納被 聞食開拓御
用途ニ可被為充行旨被 仰出候事

第三号

九月十四日 詔書寫

方流賊鷓鴣張汝有衆建節宣威艱苦盡瘁克靖北疆朕嘉
獎之乃頒賜以酬有功汝有衆懋哉

第四号

九月十四日

清水谷正四位公考

戊辰ノ冬流賊蝦地ヲ掠奪レ凶焰甚熾一旦其毒鋒ヲ
避ケ援兵日ニ至ニ及ンテ総督ノ命ヲ奉レ諸軍ヲ率
レ再レ箱館ニ涉リ日夜勉勵兵氣ヲ鼓舞レ竟ニ克復
ノ功ヲ奏候段 敝感不斜仍為其賞高二百五十石不
賜候事

第五号

當春以来流賊征討ニ付軍事盡力ノ者別紙ノ通り此
度御賞典被為行當省一請取置候間左ノ通り御引渡
申候

御沙汰書

十八通

目錄

十七通

右之通夫々御分配有之度且三人扶持被下置者ハ
於彼地行々無差支御渡有之様御取計可被成候右ノ
段申入候也

九月十八日

兵部省

開拓使御中

金六十兩

鈴木 金吾

全

小池仙之進

金四十兩

大坪 伴吉

全

江澤繁之助

全

松浦信之助

全

信澤 銀藏

全

竹内三太夫

全

川口柳之助

全

山縣立右衛門

金二十五兩

富田 友吉

全

寺崎 倉吉

全

高松幸之進

全

江幡徳太郎

三人扶持

箱館住

金三十兩

連 藏

勇 藏

金二百兩

虎房丸

金六十兩

往吉丸

全

子日丸

第六号

元箱館府兵戊辰以来各所ノ戦功御賞ナシテ三年間
二千五百石宛下賜ル

箱館ノ鍛冶連藏官軍嚮導ノ御賞ナシテ苗字帶刀ヲ
許シ三人扶持下賜ル

箱館ノ商勇藏官軍嚮導ノ御賞アリ

九月日缺

第七号

十月二十日

名代岩村權判官

島 從四位義勇

戊辰江城新ニ定ルノ時ニ當テ專ラ民政ヲ修メ日夜
執掌奉職勉勵候段 敵感不淺仍賞其勤勞禄百石下
賜候事

第八号

先般箱館ニ於テ流賊追討ノ砌落兵ノ外遂戦争候者共
ハ御賞典ノ儀右ハ箱館元府兵ト一箇ニ御見積リ相
成候事故右高ノ内ヲ分賜相成候様御取計可然存候
素ヨリ元箱館府知事指揮被致候様ハ尤府兵ト見積
リ相成候事ニ御坐候此段過日御掛合ニ有之候間為
心得申入置候也

十月二十八日

兵部省

開拓使御中

於箱館藩兵ノ外戰士ニ御賞典ノ儀取計方御申示ノ
趣承知本府ニ早急可申進候此段先及御答候也

十月二十八日

開拓使

兵部省御中

第一大隊

撒兵隊

金千兩

三番中隊

左小隊

己巳ノ年流賊追討ノ命ヲ奉レ蝦地ニ涉リ各所戍衛
精勤ノ段神妙被 思召仍為其慰勞目錄ヲ通下賜候
事

十二月十五日

兵部省

別紙ノ通被 仰出候条夫々可分与事

社寺

第一号

北海道御鎮坐相成候

大邦牟遲神

大國魂神

少彦名神

右御靈代御鏡

三

但奉納御辛櫃

御幣物

三

宣命

一通

右之通引渡申候事

九月七日

神祇官

開拓使御中

商社

第一号

商社會所

開拓御用掛并於蝦夷地箱館商社取立産物取扱方申
付候間夫々致出頭盡力可致候事

九月 日 缺

民部省

大蔵省

函館表出張人員

開拓御用掛総頭取

三井八郎右衛門目代

鹿島萬平

同

小野善助名代

松居專助

同

西村七右門名代

鹽澤文藏

開拓御用掛

奥三郎兵衛名代

重兵衛

同

荒尾龜次郎名代

忠孝七

同

後藤庄吉郎名代

金右衛門

同

栖原角兵衛名代

佐吉

同

村形吉右衛門名代

傳助

福岡藩

廣瀨謙造

菅野 迂一郎

井川鹽

上下五人

右デールス船へ乗組許容候事

九月日缺

開拓使

第二号

西山租税權大佑
森内租税太令史
福田出納少令史
右者今般通商司開拓申付函館表へ差遣候条米金出
納等ノ儀ハ都テ取締為致候間其段御承知可有之且
同所行便船等ノ儀ハ當人罷出御打合可申候此段得
御意候也

九月日缺

民部省

履歴

第一号

七月十三日御沙汰書寫

從二位鍋島直正

開拓總督被仰付置候処今度御改正ニ付開拓長官ト
被仰付更ニ宣旨下賜候事

開拓使長官

諸省卿同等タルベキ旨被仰出候事

第二号

七月廿二日

佐賀藩

從五位島義勇